

# 国立国会図書館月報

稀本あれこれ-472- 「扇一登 日記」

- 1 特集 全国書誌
- 11 韓国国会図書館との業務交流（第4回）
- 16 第14回総合目録ネットワーク参加館フォーラム
- 17 第3回レファレンス協同データベース事業参加館  
フォーラム
- 
- 20 館内スコープ
- 21 本屋にない本
- 22 月例報告
- 24 国立国会図書館の編集・刊行物
- 31 知識をカタチに  
—国立国会図書館が目指す「主題情報提供サービス」(3)
- 32 本を魅せる 常設展示案内 (24) 女學生らいふ

<お知らせ>

- 20 常設展示のお知らせ
- 25 子ども霞が関見学デーのお知らせ
- 25 本誌アンケートにご協力をお願いします
- 26 国際子ども図書館 夏休み催物「科学あそび」  
ふしぎな動きを楽しもう～ころがるマユと飛ぶタネ作り
- 27 国際子ども図書館講演会「多文化社会における児童書・児童サー  
ビス」のお知らせ
- 27 国際子ども図書館で<星座早見盤を作ろう>
- 28 近代デジタルライブラリー、大正期刊行図書を提供開始

# 6

# 2007

# No. 555

# 国立国会図書館利用案内

- 東京本館** 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03 (3581) 2331  
利用案内 電話 03 (3506) 3300 (音声サービス)  
電話 03 (3506) 3301 (FAX サービス)
- 関西館** 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3  
電話 0774 (98) 1200 (音声サービス)  
利用案内 電話 0774 (98) 1212 (FAX サービス)

ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>

- 利用できる人** 満18歳以上の方
- 資料の利用** 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
- 開館日** 月曜日から土曜日
- 休館日** 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日（第3水曜日）
- 所蔵資料** 当館の所蔵資料は、納本、購入、国際交換、寄贈等によって収集され、東京本館、関西館、国際子ども図書館に分散して配置されています。

<東京本館のおもな資料>和洋の図書、和雑誌、洋雑誌（年刊誌、モノグラフィシリーズの一部）、和洋の新聞、各専門室資料

<関西館のおもな資料>和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

## ----- 東京本館のサービス時間 -----

- 開館時間** 月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00  
※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。
- 資料請求時間** 月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00  
※ただし、音楽・映像資料室、人文総合情報室特別コレクション、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。
- 即日複写受付** 月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
- 後日複写受付** 月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30
- オンライン複写受付** 月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30

## ----- 関西館のサービス時間 -----

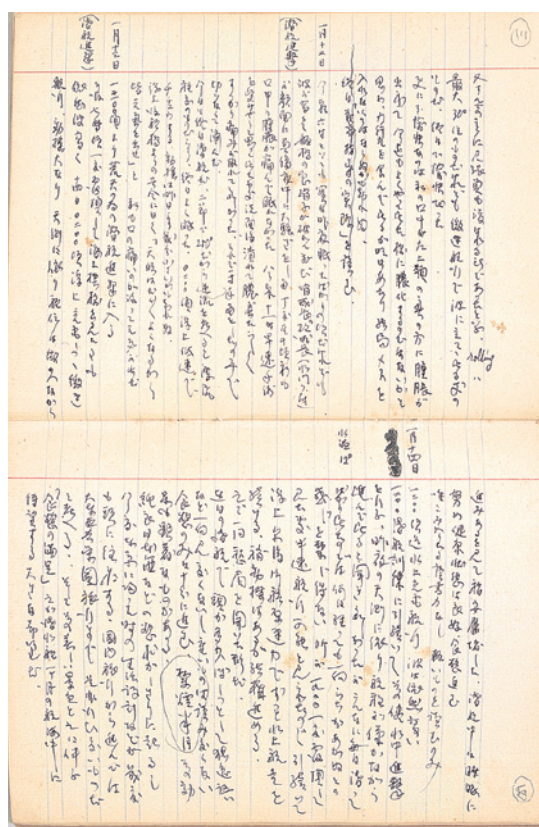
- 開館時間** 10:00～18:00 **即日複写受付** 10:00～17:00
- 資料請求時間** 10:00～17:15 **後日複写受付** 10:00～17:45
- セルフ複写受付** 10:00～17:30 **オンライン複写受付** 10:00～17:00

※詳しくは当館ホームページをご覧ください。

稀本おれこれ

(472)

扇一登日記



「土官室のマスケット」スケッチ





## 特集 全国書誌

**Q** 我が国の出版物について、官公庁出版物や自費出版物等を含めて網羅的に調べたいのですが、どのような目録・書誌を見ればよいでしょうか？

**A** 日本には全国書誌があります。さらに詳細な情報が必要でしたら、NDL-OPACもご覧下さい。

国立国会図書館法（昭和二十三年法律第五号）第七条には、我が国の出版物の目録又は索引を作成・提供する、という当館の重要な機能が規定されています（注1）。

この機能こそが「全国書誌」であり、今日では世界の多くの国々で同様の仕組みが設けられています。「全国書誌」と「納本制度」（注2）は車の両輪の関係にあり、一国の知的・文化的活動の所産である出版物の蓄積・保存・提供を十全に行うためには、両者の協働が不可欠といえます。

ここでは、この全国書誌について、その役割、概要、沿革などを紹介いたします。また、平成一九年七月以降の全国書誌サービスの展開にも触れることにいたします。

■ 書誌情報と全国書誌 ■

書誌情報（書誌データ）とは、図書や論文、記事など資料の特徴を分析して記録した情報のことです。タイトル、著者・出版者等の名称、大きさ・ページ数などが体系的に記録されることによって、既知資料の検索が可能になるのみならず、未知の資料の存在を知る手がかりともなります。

書誌情報は、個人書誌（特定個人の著作等を網羅）、販売書誌（商業出版物のリスト）など様々なまとめ方があります。ある一国で刊行されたすべての出版物を網羅的、包括的に収録した書誌は、全国書誌と呼ばれています（注3）。全国書誌は、広義には、その国に関する全著作、他国に在住しているその国の国民による著作、その国の言語で書かれた他国での著作を含むこともあります。全国書誌は、その国の文化の状況を映し出す鏡となっているのです。

全国書誌には最近の出版物を収録するもの（カレント版全国書誌）と遡及的全国書誌がありますが、カレント版全国書誌が備えるべき基本的要件は、次の四点であるといわれています。

- ① 網羅性 全国書誌には、一国で刊行されたすべての出版物を収録する
- ② 速報性 出版された資料の情報を可能な限り速やかに掲載する
- ③ 信頼性 責任ある機関が国際標準に基づいて作成した信

■ 信頼性の高い書誌レコードを収録する ■

- ④ 詳細性 全国書誌に含まれる書誌レコードは、広範囲にわたる書誌活動のニーズに応えうる、詳細な書誌情報を含む

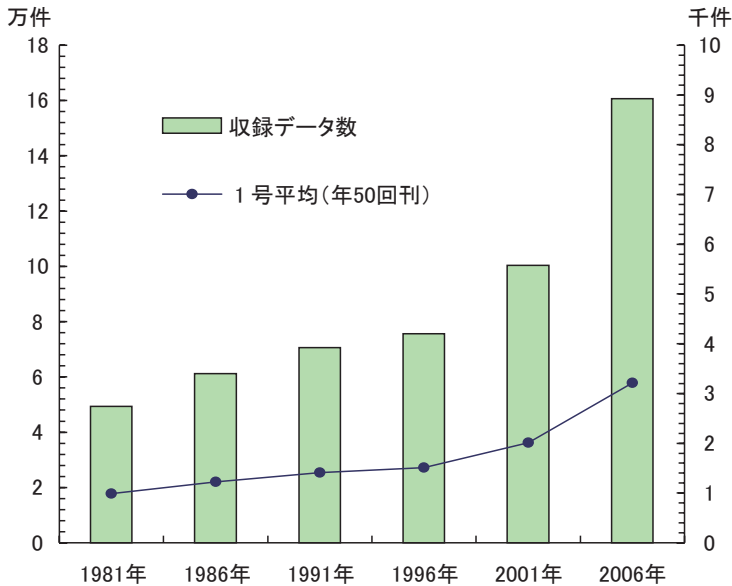
■ 日本における全国書誌の歩み ■

我が国における全国書誌は、国立国会図書館法（以下「館法」）第七条の規定により定められています。館法制定当時の条文では、「二年を越えない定期間毎に、前期間中に、日本国内で刊行された出版物の目録又は索引の出版を行う」とされており、それに対応するものとして当館は昭和二六年から『全日本出版物総目録』を刊行してきました（注4）。

一方、昭和三年一〇月に刊行を開始した『納本月報』は、納本制度によって収集した資料の月次リストですが、こちらも我が国の全国書誌の源流といえるものです。『納本月報』は、昭和二五年『国内出版物目録』と改題、昭和三〇年には『納本週報』として週刊化され、速報性が重視されるようになったことがうかがえます。『納本週報』は、印刷カード発注リストの機能を兼ねており、他の図書館の参考となる書誌情報を提供する、という全国書誌のもう一つの役割を果たしていました（注5）。

昭和五六年一月、『納本週報』は『日本全国書誌週刊版』と改題。名実ともに、日本の全国書誌が誕生しました。この年は、機械可読版の全国書誌『JAPAN/MARC』（注

図1 『日本全国書誌』収録データ数



6)の頒布も開始されており、日本の全国書誌の転換期だったといえます。

図1に、昭和五六(一九八一)年以降の『日本全国書誌』収録件数の伸びを示しました。年間で約五万件、毎号あたり平均で千件弱だったものが、平成一八(二〇〇六)年には年間一六万六、八二〇件、毎号三、三〇〇件余にも上っています。

『出版年鑑』によると、日本国内で刊行され書店等で入手可能な新刊図書は平成一八年中に八〇、六一六点でした。それと比べて、先程の一六万件は、市場に流通しにくい官公庁出版物や自費出版物等をも収録する『日本全国書誌』の網羅性が示されている数字といえましょう。

網羅性は、収録対象となる資料の形態にも現れています。当初は冊子体の図書や逐次刊行物(雑誌、新聞等)が中心でしたが、近年の出版媒体の多様化に伴い、様々な媒体の出版物が収録対象となってきました。

平成一一年からは、マイクロ資料、パッケージ系電子出版物、静止画資料、録音資料などが、平成一五年からは、楽譜(一枚もの)、音楽録音資料、映像資料、地図(一枚もの)、住宅地図が収録対象となりました。

### 『日本全国書誌』の概要

現在の『日本全国書誌』は、カレント版全国書誌として、当館が収集整理した日本国内の出版物および外国で刊行された日本語出版物の書誌情報を週刊で提供しています。

○構成および排列

図書、逐次刊行物、視覚障害者用資料、電子出版物、地図、音楽・録音資料および国内刊行アジア言語資料の七部構成とし、各部内では、一部を除き本タイトルの読みの順に排列しています。七部中で一番収録点数が多い図書の部は、一般図書、児童図書、国内刊行欧文図書、その他の図書および非図書資料に区分、さらに一般図書は、官公庁出版物と民間出版物に細分しています。また、一般図書は分類記号順、官公庁出版物は官公庁順に排列するなど、資料ごとの検索の便宜も考慮したリストになっています。

○準拠する規則類

記録する書誌情報は、以下の規則に準拠し、必要に応じて当館適用細則および分類基準を定め適用しています。

- ・ 日本目録規則（NCR）一九八七年版改訂三版
- ・ 日本十進分類法（NDC）新訂九版
- ・ 国立国会図書館件名標目表（NDLSH）

○収録する書誌的事項

〈タイトルと責任表示に関する事項〉 本タイトル、資料種別、並列タイトル、タイトル関連情報、巻次・回次・年次、責任表示

〈版に関する事項〉 版表示

〈資料（または刊行方式）の特性に関する事項〉 電子的内

容（電子出版物）、数値データ（地図）、楽譜の種類（楽譜）、巻次・年次（逐次刊行物）

〈出版・頒布等に関する事項〉 出版地・頒布地等、出版者・頒布者等、出版年・頒布年等

〈形態に関する事項〉 特定資料種別と資料の数量、大きさ、付属資料

〈シリーズに関する事項〉 本シリーズ名  
〈多巻ものの各巻タイトルと巻次〉 巻次、各巻タイトル、各巻巻次

〈注記に関する事項〉 システム要件に関する注記（電子出版物）、刊行頻度に関する注記（逐次刊行物）、版及び書誌的来歴に関する注記（逐次刊行物）、形態に関する注記（音楽録音・映像資料）、装丁に関する注記（図書）、レール名（音楽録音・映像資料）

〈標準番号、入手条件に関する事項〉 標準番号、入手条件・定価

〈分類〉 NDC新訂九版による分類記号

〈件名〉 NDLSHによる件名標目

〈全国書誌番号〉 『日本全国書誌』に掲載する各書誌レコードに対して一意的に付与する番号（ただし、国内刊行アジア言語資料は除きます）

〈請求記号〉 国内刊行アジア言語資料のみ、全国書誌番号の代わりに、請求記号を記録しています。

の代わりに、請求記号を記録しています。



■ 海外の全国書誌

全国書誌という概念は、西欧諸国において一六世紀頃に萌芽したとされています。一九世紀における出版量の増加、ナショナルリズムの高まり、さらに法定納本制度との結びつきにより、各国で全国書誌が刊行されるようになりました。一九七七年にはユネスコと国際図書館連盟（IFLLA）による全国書誌国際会議が開催され、全国書誌の要件などが明確化されています。一九九八年の第二回会議では、ネットワーク系情報資源の扱いが課題となり、ユーザ志向の全国書誌作成も勧告されています。

全国書誌の提供方法にも大きな変化が生じています。IFLA書誌分科会の調査によれば、「全国書誌の現行のフォーマットは何か」という問いに対して、二〇〇一年四月時点で全国書誌を作成・提供していた五二か国中、冊子体は三九か国、インターネットは二二か国、冊子体・インターネットともに提供しているのは二か国でした（表1）。このうち複数の国から冊子体の作成中止を検討中との回答があり、調査時点ですでにオーストラリア、カナダ、フランス、米国の国立図書館は冊子体による提供を中止し、インターネットによる提供を行っています。

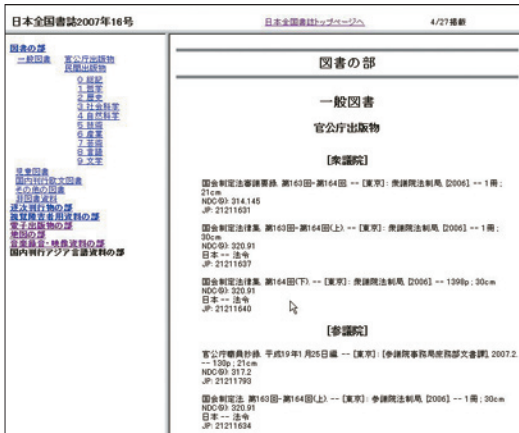
この調査では「全国書誌のフォーマットは紙媒体からインターネットへと変化しつつあり、この傾向は今後も継続あるいは加速するだろう」との予測も立てられています。

表1 IFLA書誌分科会による全国書誌調査結果

媒体	2001年 (52か国)		2005年
	世界	アジア (11か国)	アジア (14か国)
冊子体	39 (75%)	9 (82%)	6 (43%)
マイクロフィッシュ	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)
磁気テープ	7 (13%)	1 (9%)	1 (7%)
フロッピーディスク	7 (13%)	1 (9%)	0 (0%)
CD-ROM	19 (37%)	5 (45%)	5 (36%)
オンライン	16 (31%)	4 (36%)	4 (29%)
インターネット	22 (42%)	1 (9%)	6 (43%)
冊子体+インターネット	12 (23%)	0 (0%)	2 (14%)

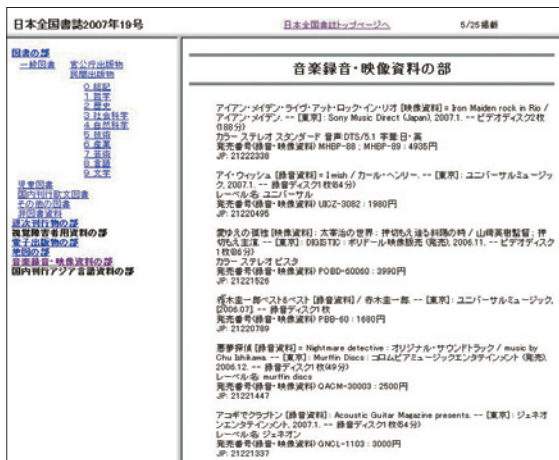
二〇〇五年のアジア地区を対象とした調査では、二〇〇一年の調査時に冊子体を刊行中と回答した国のうち三か国がインターネットでの提供に切り替えています。冊子体からインターネットへの媒体変更には、印刷の手間や時間を削減することにより提供までの時間を短縮できる、無償で制限のないアクセスが可能であるため、より多くの利用が期待できる等の利点が背景にあると考えられます。

日本全国書誌 HP 版の画面例 1 (官公庁出版物)



『日本全国書誌』ホームページ インターネットの普及に伴う全国書誌サービスの変化は、我が国も例外ではありません。当館は、平成一四年四月から『日本全国書誌』ホームページ版の刊行を開始、当館ホームページ上で提供しています。同年一〇月には国立国会図書館蔵書検索・申込システム（NDL-OPAC）が稼働しており、ここにインターネット時代の新しい全国書誌が誕生しました。

日本全国書誌 HP 版の画面例 2 (音楽録音・映像資料)



ホームページ版提供開始後の『日本全国書誌』は、速報性と一覽性を重視する一方で、詳細性は JAPAN/MARC や NDL-OPAC に委ねています。先程の「収録する書誌の事項」（四ページ）や画面例のとおり、注記は最小限しか掲載しておらず、内容細目や著者標目は省略されています。また、国立国会図書館分類表による分類記号や請求記号も同様です。これらの情報をも含んだ、他の図書館

の参考となる詳細な書誌情報はJAPAN/MARCCで、当館の蔵書目録として必要な情報はNDL-OPACで提供しています。

ホームページ版提供開始から五年の間に、我が国のインターネット普及率は増加の一途をたどり、『日本全国書誌』ホームページ版の利用も定着してきています。一方で冊子体の需要は減少を続けていることから、事務合理化の観点での検討を行いました。検討の結果、冊子体の刊行は取り止め、ホームページ版に一本化することとした次第です(注7)。

### ■ 今後の全国書誌サービス

『日本全国書誌』を中心とする全国書誌サービスは、納本制度の着実な遂行に負うところが大きく、『日本全国書誌』は納本された資料の受入リストとして迅速な提供が望まれます。当館の平成一九年度サービス基準では九〇%以上の資料を受入後五〇日以内に『日本全国書誌』に掲載することとしています。より一層の速報性が今後も追求されるべきものです。

### ■ 全国書誌と書誌情報

また、単に『日本全国書誌』やJAPAN/MARCCとして書誌情報を提供するだけでなく、その改善や標準化を進め、多様な方法で提供することも必要です。

信頼できる情報源としてインターネット上で利用していたために、他の情報提供ツールとの連携または機能分担を明確にしておく必要があります。例えば、当館のデジタルアーカイブポータルは、JAPAN/MARCCの和図書・和雑誌データを検索対象としていますが、さらに、当館データ以外にも各種の外部データが統合検索の対象となっています。

全国書誌、NDL-OPAC、デジタルアーカイブポータル、近代デジタルライブラリー等、当館が提供する各種データ、さらには外部のデータと合わせた書誌情報の世界における全国書誌の位置づけ、さらには検索エンジン万能時代の書誌情報提供のあり方を検討しなければなりません。

### ■ 書誌情報と典拠情報

全国書誌データは、NCRやNDCという国内標準を適用して作成されていますが、さらに名称典拠、件名典拠、各種コード類など、当館が作成し維持管理しているツール類にも基づいています。

同一人物・団体の異なる名称による出版物を集中させる一方で、同名異人・同名異団体の著作を区別するためには個人や団体の名称を記録した名称典拠ファイル、思いついた言葉で特定テーマ(主題)に関する資料を探すためには主題を表す言葉を体系化した件名典拠ファイル(注8)が有効です。これらは元々、書誌情報をより一層充実させ

るために作成されていたものであり、書誌情報作成者の利用が第一でした。

一方、インターネットで図書館のOPAC利用が当たり前となった現在では、書誌情報と同じく、誰もが使いやすい形で提供する必要が出てきています。NDL-OPACでは著者標目、件名標目という形で提供していますが、デジタルアーカイブポータルでは辞書ファイルとして組み込み、「典拠」という仕組みを殊更に意識しなくても検索が行えるようになっていきます。

図書館が独自に書誌情報を提供する意義は、この「典拠」にかかっているともいえませんが、利用者がこれらのツールを知らなければならぬわけではありません。「標目」や「件名」という言葉を知らなくても調べ物ができるように、書誌情報、典拠情報の提供方法を改善していく必要があります。

### ■ ■ ■ ■ ■ おわりに

これまで、『日本全国書誌』やJAPAN/MARCC等に関する情報は『全国書誌通信』（注9）という冊子で広報してきたところですが、インターネット時代の書誌情報提供に相応しい内容、提供方法が求められています。そこで、『日本全国書誌』ホームページ版への一本化と歩調を合わせ、広報媒体もリニューアルし、新たに『NDL書誌情報ニュースレター』を刊行することにいたしました（特集末尾、一〇ページをご参照ください）。

国立国会図書館は、館法第七条に規定された国立図書館の重要な使命を全うするため、書誌情報（および典拠情報）の作成、提供について、今後も不断の努力を続けてまいります。その活動については、本誌や『NDL書誌情報ニュースレター』で広くお知らせしてまいります。

今後とも、『日本全国書誌』および当館の書誌情報サービスへのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

（注1）国立国会図書館法の一部を改正する法律（平成十八年法律第十号）による改正後の国立国会図書館法第七条は次のとおりです。

「館長は、一年を超えない期間ごとに、前期間中に日本国内で刊行された出版物の目録又は索引を作成し、国民が利用しやすい方法により提供するものとする。」

なお、改正の詳細は、本誌五五四（二〇〇七年五月）号をご参照ください。

（注2）納本制度の詳細は、本誌五四七（二〇〇六年一〇月）号をご参照ください。

（注3）全国書誌の定義等は、日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第2版（丸善、平成一四年三月）によります。なお、全国書誌や『日本全国書誌』の詳細な歴史は、上保佳穂「日本全国書誌のあゆみ」『全国書誌通信』第一一八号（二〇〇四年六月）三頁―一頁をご参照ください。（注4）『全日本出版物総目録』は年刊で、第一号は昭和二三年度

### NDLSH2006年度版を提供

国立国会図書館件名標目表 (NDLSH) は、当館の目録に適用する件名標目を収録した一覧表です。件名標目は、『日本全国書誌』上で日本十進分類法 (NDC) 新訂9版の下に掲載されています。

平成16年に開始したNDLSH全体にわたる改訂作業において、「を見よ」参照・「をも見よ」参照・スコープノート (限定注記) の充実、細目の運用基準の明確化、NDC新訂9版の付与などを行い、件名標目表全体がより合理的で使いやすいものになるよう改善を図ってきましたが、平成18年9月にその作業を終了しました。

平成19年6月には、前述の改訂作業と3月末までに新設・標目訂正・削除された件名標目を反映した一覧表「2006年度版 (2007年3月末現在)」を当館ホームページに提供しています。URLは以下のとおりです。

[http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/ndl\\_ndlsh.html](http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/ndl_ndlsh.html)

平成18年9月から実験的提供を開始したNDLSHテキストデータについても、内容をNDLSH2006年度版に更新します。NDLSH2006年度版テキストデータの提供を希望される方は、上記ページをご確認のうえお申し込みください (すでに2005年度版の提供を受けた方も、2006年度版をご希望の場合はあらためて申請が必要です)。

に刊行された図書、逐次刊行物、地図、音盤等を対象としてきました。当初は当館収集資料以外に、出版界や大学・公共図書館等のご協力を得て編集作業を行っていましたが、昭和三三六年度からは当館収集資料のみを収録、昭和五二年度が最終号です。

(注5) 図書館目録の主流がカード目録だった時代には、当館が提供する印刷カードは多くの図書館で利用されていました。

(注6) 『JAPAN/MARC』のMARCはMachine Readable Cataloguingに由来するものです。日本語では「機械可読目録」という用語が定着していますが、単に製品としての目録・書誌情報、データベースを指すのではなく、その作成方法をも含めた概念です。

(注7) 冊子体の刊行を取り止めることについては、平成一四年にホームページ版を提供開始した際にも検討されましたが、当時のインターネット普及率等を勘案し、当分の間は冊子体とホームページ版の二本立てとすることとされていました。

(注8) 当館が作成する普通件名の典拠ファイルである国立国会図書館件名標目表 (NDLSH) は、主題からのアクセス向上を目指して改訂作業を行い、その成果を二〇〇六年度版として提供中です (上の囲み記事もご覧ください)。

(注9) 『全国書誌通信』は、昭和四六年一月に創刊された『印刷カード通信』の後継誌です。平成一九年五月までに、合わせて一二七号を刊行しています。

(書誌部書誌調整課)

## 『NDL 書誌情報ニュースレター』 創刊のお知らせ

書誌情報に関する広報誌『全国書誌通信』を終刊し、新たに電子版広報誌として『NDL 書誌情報ニュースレター』を創刊、当館ホームページに掲載しています。

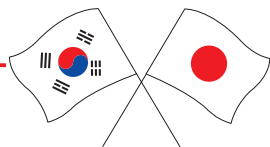
[http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib\\_newsletter/index.html](http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib_newsletter/index.html)

The screenshot shows the National Diet Library (NDL) website interface. At the top, there is a navigation bar with the library's name in Japanese and English, and a search bar. Below this is a secondary navigation bar with various service links. The main content area features a sidebar on the left with a tree view of services, and a central panel for the 'NDL Bibliography Newsletter'. This panel includes the ISSN number (1892-0460), issue information (2007年0号(論考0号)), and a list of contents. A small cartoon dog mascot is also visible on the right side of the newsletter information.

従来の広報誌は『日本全国書誌』、JAPAN/MARC、J-BISC等に関するお知らせや書誌データ作成の基準類の掲載が中心でしたが、最近では『日本全国書誌』ホームページ版、NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）等によりインターネット経由で広く当館の書誌データをご利用いただけるようになったため、『全国書誌通信』も電子版に移行し、インターネットで利用できる書誌データや、当館ホームページの「書誌データの作成及び提供」などに掲載する各種情報との関連づけを強めた広報を行います。

『NDL 書誌情報ニュースレター』で提供する、書誌データ関連、書誌作成業務関連情報にご注目ください。

E-mail : [bib-news@ndl.go.jp](mailto:bib-news@ndl.go.jp) (NDL 書誌情報ニュースレター編集担当)



## 韓国国会図書館との業務交流（第四回）

はじめに

国立国会図書館と韓国国会図書館との第四回目の業務交流が、二〇〇七年一月二十八日から二月一日まで、ソウルの韓国国会図書館において行われた。韓国国会図書館は、韓国国立中央図書館とともに韓国を代表する図書館であり、国会のための図書館であると同時に、国民へのサービスを行う納本図書館でもある。

当館と韓国国会図書館との交流は、二〇〇〇年度から、相手国に職員を派遣する研修交流という形で開始された。二〇〇三年度からは、相互に二名の職員を派遣し、互いの主要課題について報告・討議する業務交流を実施してきた。今回は、その第四回目として、当館から調査及び立法考査局（以下、調査局）総合調査室の中川秀空主任調査員と社会労働課の田中敏副主査の二名が訪韓し、国会サービス部門である立法情報室の職員との業務交流を行った。今回の交流のおもな目的は二つである。一つ目は、両館の運営上の主要な課題や重点的に取り組んでいる事業等について相互に報告を行い、それぞれの業務の見直し・改善の参考とすることである。二つ目は、日韓双方にとって関心の高い政策課題をテーマとして設定し、双方が報告を行い、質疑・意見交換を行うことで、互いの実情についての認識を深め、専門分野における知見を高めることである。



韓国国会図書館の外観。右手奥は建設中の新棟。

## 業務交流の内容

業務交流は、両館の業務および政策課題に関する二つのセクション、立法情報室各課の業務内容説明、今後の業務交流についての協議というプログラムで進められた。

一月二十九日のセクションⅠ「両館の現状における課題」では、日本側が最近の調査局の業務改革について、韓国側が二〇〇七年一月の組織再編について報告した。

一月三〇日に行われたセクションⅡ「高齢化社会対策」では、日本側が、日本の高齢化の現状と社会保障制度の概要について、韓国側が、韓国での高齢者層の政治参加について報告した。また同日、韓国国会図書館の組織再編により新設された立法情報調査室の各課を訪問した。

一月三十一日には、今後の業務交流のあり方に関する協議を行い、今後も業務交流を継続することを確認した。また、韓国国会に新設される立法調査処の概要と機能についても説明を受けた。

以下、各セクションにおける報告の概要と、組織再編後の立法情報室各課の業務内容について紹介する。

### セクションⅠ「両館の現状における課題」

日本側報告「国会サービスの指針および第二次国会サービス基本計画の策定と実施状況」

調査及び立法審査局総合調査室 中川秀空主任調査員  
①「国会サービスの指針」「第二次国会サービス基本計画」

### の策定

質・量ともに増大する議員からの依頼調査に対応するため、二〇〇六年二月に、「国会サービスの指針」および「第二次国会サービス基本計画」を策定した。「国会サービスの指針」は、「立法府のブレン」としての機能および「議員のための情報センター」としての機能を充実・強化することを内容としている。「第二次国会サービス基本計画」は、同指針を具体化するための計画である。

### ②「立法府のブレン」

まず、組織面において「専門的な調査」と「情報提供型の調査」の機能を分化した。前者は、主題担当の各調査室・課が、後者は、国会レファレンス課が処理する体制を整備した。

さらに「立法府のブレン」として、高度な専門性に基づく付加価値の高いサービスを遂行するために、各調査室・課の専門的調査の充実を図ることとした。具体的には、国政課題を分析・評価した詳細な調査報告書の作成、面談や会議の場での的確な説明や質疑応答などの強化である。

### ③「議員のための情報センター」

議員向けのホームページである「調査の窓」の利用拡大を促す機能やコンテンツの充実を図ることとした。議員閲覧室・研究室および秘書用の研究室のＩＴ環境も整備した。また、国会に対するサービスを一体的に提供するため、国会分館（議事堂内にある図書館）を調査局に統合する準備を進めている。統合後は、調査局のノウハウと、国会分





報告を行う中川主任調査員（右）とイ・サンパル立法情報研究官（左）

向けの利用説明会も開催している。

### 韓国側報告「国会図書館の組織再編の論理と期待効果」 立法情報室立法情報支援課

イ・サンパル立法情報研究官

#### ①国会図書館の組織再編の背景

二〇〇七年一月に組織を再編し、それまでの一室二局一三課二七五人体制から、一室三局一五課二九八人体制へ拡大した。議員への立法情報サービスの増大については、韓国も同じ状況であり、これに対処するための組織再編で

館で所有する資料を活用しながら、効率的・効果的なサービスの提供が可能となる（国会分館は、二〇〇七年四月に調査局に統合された）。

#### ④要望調査と利用説明

定期的に議員のニーズを把握するため、議員要望調査を実施している。

また、議員に対する業務説明も強化した。特に新人議員については、全議員に利用案内を行うこととしている。議員秘書

ある。議員は、分析・加工・精製された情報を求めている。特に、海外の法令や制度に関する情報の需要が多いが、言語別の専門家が不足しており、既存の人員でニーズを満たすには限界があった。

また、貸出・複写などのオフライン・サービスに加えて、オンライン・サービスへの需要が高まっている。このため、既存の立法知識データベースに加えて、政策沿革情報、法律データベース、インターネット資源の蓄積などのサービスを充実させる必要があった。

#### ②組織再編により期待される効果

今回の組織再編のおもな目的は、海外情報の提供サービスを量的・質的に向上させることである。人員増により、立法情報研究官の情報検索および情報収集にかかる時間の短縮ができる。議員への事実的情報サービスおよび分析的情報サービスへの満足度の向上や、国会事務処、常任委員会、予算政策処に提供する情報の質的向上も期待できる。

組織再編が成功するか否かは、職員の改革に対する理解度、改革への参加度が鍵となる。リーダーによる改革速度の緩急の調節も重要である。スピードが速すぎると成功は難しい。

### セクションⅡ 「高齢化社会対策」

#### 日本側報告「日本における高齢化と社会保障制度」

調査及び立法考査局社会労働課 田中敏調査員

日韓両国では、極めて急速な高齢化が進行している。日

本では、高齢化の影響を大きく受ける社会保障制度について、この数年間に、制度改革が行われている。

年金制度改革では、現役世代の負担軽減のため、将来の保険料水準を固定することが規定された。これに伴い、保険料収入に応じた給付となるよう、給付水準の抑制が実施される。二〇〇六年末に公表された新しい人口推計では、一層の少子化が予測されており、年金の給付水準との関連からも、少子化対策が重要課題となっている。

医療制度および介護保険制度の改正においても、給付費の抑制に重点がおかれている。生活習慣病の予防や介護予防など、予防を重視する仕組みが導入された。

一連の制度改革により、社会保障給付費の増加抑制が見込まれているが、今後も、医療費を中心とした社会保障費の抑制策についての議論が続くものと考えられる。

### 韓国側報告「高齢者の投票行動」

#### 立法情報室立法情報支援課

##### イ・ヒョンチュル立法情報研究室

韓国では、高齢者比率が二〇〇〇年に七%を超えており、高齢化社会から高齢社会へと向かっている。高齢層の増加は、その高い投票率とあいまって、高齢者の政治的な影響力を増大させるものと見られる。

投票による政治参加の他にも、結党による参加や利益団体活動による参加がある。結党の例としては、二〇〇二年

に結成された高齢者権益保護党がある。利益団体による活動は、高齢者福祉法の改正や、敬老年金の実施に影響を与えてきた。

今後も、高齢者問題を中心として、高齢者の結集による影響力の増大が予想される。高齢者世代を代表する議員が増え、高齢層優遇の政策が進められるかも知れない。世代間の葛藤を解消するための政治的な合意が必要であろう。

#### 質疑応答

韓国では介護保険制度の導入が予定されていることから、日本の介護保険制度に関する質問が複数あり、関心の高さがうかがえた。

#### 組織改編後の立法情報室各課の業務内容

セツシヨンⅡの終了後、組織再編により新設された立法情報室各課を訪問し、各課の業務内容について説明を受けた。立法情報調査室各課の業務の概要は次のとおりである。

##### ①立法情報支援課

各立法情報研究室への調査依頼の振り分け、各種情報の検索サービス、広報、議員要望調査等の業務を行う。立法情報支援課で受理する依頼のうち、約六割が立法情報研究室が担当する分析的な調査で、約四割がそれ以外の調査である。年に一度実施している議員要望調査では、おおむね良好な評価を得ている。特に分析的調査の評価は高い。

## ②立法情報生産課

三種類のデータベースの構築および運用を行っている。  
立法知識データベースは、設定された政策テーマごとに各種資料・分析的報告を蓄積するもので、現在、約千件を蓄積している。

参考データベースは、内外の資料・新聞・インターネット上にある図表やデータを収集するシステムである。インターネット上のデータについては、自動収集システムを用いている。著作権上の問題が生じないものについては、今後公開していく予定である。

政策沿革データベースは、ある政策に関する資料を、立案・決定・運用の各過程に分けて体系的に整理するものである。議員および立法情報研究官向けであり、資料の客観性に重点を置いている。

## ③法律情報課

内外の法律を体系的にデータベース化している。翻訳やコンテンツの質の確保に関しては、外部の翻訳センターへの委託や、最高裁判事等による監修体制を整えるなどの方法を採用している。データベースは将来公開する予定である。

## ④国外資料課

国会からの要求に基づいて、海外の資料の提供や翻訳サービスを行っている。また、海外の議会の動向、海外メディアの韓国関連情報などを把握し、いち早く議員に提供している。翻訳は海外資料官が行うが、最近は英語・日本

語関連の要求が増え、それぞれの専門官を増強した。

## ⑤インターネット資料課

インターネット上の、政府・自治体・シンクタンクなどの資料を収集・蓄積している。自動収集システムを使用しているが、最終的には司書が確認する。システムで収集できない資料や、政策の争点となりそうなものについては、司書が手作業で収集する。

## ⑥情報技術支援課

図書館情報システムの開発、運営およびネットワークの管理を行っている。

## おわりに

国会向けサービスについては、両館ともに、調査依頼の増加・高度化に対応するかという課題があり、今回のセッションを通じて学ぶ点が多くあった。また、高齢化社会対策に関しても、社会事情等で両国に共通する点があり、知識の共有は有益であった。

組織改変直後の多忙な時期にもかかわらず欲待してくださった韓国国会図書館の職員の方々に感謝するとともに、今後の交流が、相互の協力関係をより深めるものになることを期待する。

(調査及び立法考査局総合調査室主任調査員 中川 秀空)  
(調査及び立法考査局社会労働課副主査 田中 敏)

## 第一四回総合目録ネットワーク参加館フォーラム

平成一九年二月二一日、国立国会図書館関西館において、総合目録ネットワーク参加館フォーラムを開催した。参加館三二館三五名のほか、関係機関等の参加者とおわせて五八名の参加があった。

まず、当館の豊田図書館協力課長（当時）が平成一八年度の事業経過を報告した。また、当事業の現況について、都道府県立図書館では一県から一図書館が、政令指定都市立図書館では一市から二つの分館が、市区町村立図書館では二二の都道府県から三一館が新たに参加し、平成一九年二月現在の参加館は一、〇二館となったこと等を説明した。質疑では、事業の中期的方向性に関連し、次期システムの構想について質問があった。

参加館からの報告としては、三重県立図書館企画調整課渡邊恵子氏から、三重県における図書館情報ネットワーク（通称 M I L A I）の構築経緯と機能、物流面での図書館ネットワークの実態などにつき紹介があった。次に、富山県立図書館調査課長林俊一氏から、富山県内での資料相互貸借の運用状況、経費負担や物流面での協力体制等につき紹介があった。

意見交換では、参加館からの報告に対して、資料の相互貸借に際しての資料搬送の体制等、具体的な物流の仕組みや、貸出館の経費負担等についての質問があった。

（関西館図書館協力課）



## 第三回レファレンス協同データベース事業参加館フォーラム

平成一九年二月二二日、国立国会図書館関西館において、七四機関一〇六名の参加のもと、第三回レファレンス協同データベース事業参加館フォーラムを開催した。

レファレンス協同データベース事業（以下「当事業」という。）では、平成一八年度に次のような活動を行った。

・レファレンス協同データベース事業企画協力員の委嘱（七月）

・第二回システム研修会開催（一〇月）

・『レファレンス協同データベース事業調べ方マニュアルデータ集』刊行（三月）

こうした活動を受け、当フォーラムは、データの提供、人材育成などへの活用に関する実践的な取組みについてのノウハウを、参加館全体で共有することをテーマとして開催した。当館からの事業報告に続いて行われた講演・報告・パネルディスカッションの要旨を次に紹介する。

### ◆基調講演

日本のレファレンスサービスはいま

— 成果共有型ネットワークの可能性 —

青山学院大学文学部教授 小田光宏氏

当事業は、資料を共有する資源共有型のネットワークとは異なる、サービスの成果を共有する成果共有型のネット

ワークと呼ぶことができる。成果を共有することにより、研修、出版、研究等さまざまな活用が生まれている。

欧米では米国を中心とする Question Point などに見られるように、図書館に來なくても何らかの質問を図書館に寄せて解決するという、バーチャルレファレンスサービスが多く実践されている。当事業は、これらと異なる日本独自の取組みであり、世界的にも重要な意味を持つであろう。

◆報告（一）レファレンス協同データベースが生み出す力

— ネットワークがもたらす波及効果 —

近畿大学中央図書館 寺尾隆氏

平成一四年度に閲覧サービス部門が業務委託されて以来、人材育成のためレファレンス業務を職場内研修として位置づけている。当事業には平成一六年に参加し、他館未解決事例への取組み、コメント機能を使用した情報提供を行ってきた。これらは人材育成に有効であり、また参加館間での蔵書構成を補完するという効果も生み出している。



## ◆報告(二) 広告図書館の実践

吉田秀雄記念事業財団アド・ミュージアム

東京広告図書館 栗屋久子氏

平成一四年に東京都港区汐留に移転して以来、新任の二名の司書とレファレンス記録をノートに蓄積していた。これを、平成一六年からレファレンス協同データベースに登録している。一般公開した事例(※1)が、文部科学省主催の研修会で紹介され、さらにそれが港区立図書館からの見学や研修依頼へとつながった。データを公開することで思わぬところから反響があるということは、レファレンスサービスの醍醐味に通じるのではないだろうか。

※1 レファレンス協同データベースのデータの公開レベルは「自館のみ参照」「参加館公開」「一般公開」の三種類がある。

## ◆報告(三) 「調べ方マニュアルデータ集」作成にあたって

昭和女子大学人間社会学部教授 大串夏身氏

調べ方マニュアルとは、特定のテーマやトピックに関する情報源の探索方法を解説した情報である。「調べ方マニュアルデータ集」では、さまざまなねらいや作成プロセスで作成されたデータの中から、二五件選定収録し、個々に解説を付した。また、データ解説の前に、調べ方マニュアルの社会的意義、個々の図書館での整備の必要性、作成の視点、図書館側、利用者側それぞれの用途などを解説した。

## ◆パネルディスカッション

レファレンスサービスの醍醐味を語る

— 成果の共有から始まる次世代サービスの創造 —

まずコーディネーターの大串氏から、「レファレンスサービスの醍醐味」の例として、利用者からの感謝の言葉、調査の方針が適切な回答に結びついた達成感、質問の背景が明確になったときの喜びなどが紹介された。一方で、フォーラム参加者への事前アンケートでは、レファレンス事例の共有や蓄積が役立ったという意見のほか、利用者とのコミュニケーションに関する不安の声が多かったことが説明された。

その後、パネリストの実践報告およびディスカッションが行われた。

【東邦大学医学メディアセンター 牛澤典子氏】

昭和五二年から月一回、レファレンス事例を取り上げて検討する勉強会を実施し、取り上げた事例の中からレファレンス協同データベースに登録している。また、二年前に病院内に患者図書室を開設した。医学の専門家以外の方への情報提供はまだ経験が浅いが、公共図書館などのレファレンス事例を読み、学んでいる。これからも調べ方マニュアル作成やコメントなどで貢献していきたい。



【東京都立日比谷図書館 進藤つばら氏】

広報誌の特集で法律情報の探し方をまとめる際、所蔵資料のほか、レファレンス協同データベースに登録されている自館、他館のレファレンス事例、調べ方マニュアルなどを検索し、参考にした。

レファレンス協同データベースはレファレンス事例、調べ方マニュアルなどを横断的に検索できるため、データが増えればさらに便利になる。皆さんにもぜひ登録していただきたい。

【寺尾隆氏】

レファレンス協同データベースに登録されているレファレンス事例を三つのレベルの研修に利用している。

レファレンスサービスの醍醐味は「レファレンスが人を育てる」ということである。図書館員が利用者を支援し、利用者が図書館員を鍛える。さらに、当事業は、利用者図書館員との間で図書館職員の成長を促している。

【粟屋久子氏】

自館の未解決レファレンス事例にコメント機能で情報が寄せられたのを契機に、参加館支援機能にはコメントのほか統計機能等があることがわかった。そこで自館の公開データの被参照数が専門図書館の中でも多いことに気づき、上層部への報告に使った。貸出しを行わない館では、利用者数のほか、データの被参照数も新たな評価指標となる。

また、すでに登録したレファレンス事例を新人とともに再び見直すことで、新人のみならず自分たちもレベルアップを図る手段としたい。

最後に、コメントーターの小田氏から、当事業が改善・充実していくための視点として、コミュニケーション機能、評価の指標化、などが指摘された。

終了後のアンケートでは、「各館のさまざまな取組みを聞くことができ役に立った」等の声が寄せられるなど評価をいただいた。当フォーラムの記録は当事業ホームページ(<http://crndl.go.jp/library>)に掲載する予定である。

(関西館図書館協力課)



平成18年度の活動を紹介するコーナーを設置

フォーラム当日、関西館1階に当事業の活動を紹介するコーナーを設けました。

参加館による雑誌記事やレファレンス記録、韓国で行われたIFLA大会、日韓業務交流、日中業務交流での報告資料のほか、青山学院大学で作成している、データ作成やコメント機能を説明した遠隔教育教材などを展示しました。

総務部企画課電子情報企画室の仕事の中には、部署の名前からはあまり想像できない、国立国会図書館ホームページの運営、というものがあります。業務としては、ホームページの更新作業やホームページで提供している画像の転載許諾事務のほか、数年に一度ホームページのリニューアルを行っています。

私は昨年四月から電子情報企画室に配属され、リニューアル担当になったので、ホームページに、どういうデータベースや情報があるのか、調べてみました。ところが、どこに何があるのかよくわからず、サイトマップを表示して、そこにあるものをしらみ潰しに見る、というような方法を取らざるを得ませんでした。

恐らく利用者の方も、同じ感想を持っているのではないかと思います。まずは、どこに何があるのかわかりやすいホームページにしないといけない、と実感しました。

一方で、公的機関のホームページには、高齢者や障害を持つ方の利用への配慮が求められています。今回のリニューアルでは、それに対応することも、大きな目標としました。



実際にリニューアルを進める中で、ホームページに対して、利用者アンケートや、当館の各部署からも、数多くの意見や要望が寄せられ、中には相対立するものもありました。これらを考慮しつつ、どこに何があるのかわかりやすく、高齢者や障害を持つ方にも利用しやすいホームページを目指しました。リニューアルの作業期間も短く、ブラウザの種類によっては、画面の表示がおかしくなるなど、技術的、スケジュール的に難しい問題が多くありました。何とか、四月二日に新ホームページを提供することができました。誰にでも使いやすいホームページに近づけたと思っています。

提供後も残った問題への対応を引き続き行い、リニューアルは一段落しましたが、ホームページは常に更新されています。今後は、更新作業の中で、さらに誰にでも使いやすいホームページを目指していきたいと考えています。

デザインも一新され、より便利になったホームページにぜひアクセスしてみてください。

(総務部企画課電子情報企画室)

ブローマン君

## 常設展示のお知らせ

### 第一四八回 「女學生らひふ」

平成一九年六月二日(木)から

八月二日(火)まで

於 本館二階第一閲覧室前(東京本館)



詳細は本誌五五四号または当館ホームページをご覧ください。ホームページでは、「ギャラリー」のなかにある「常設展示」のコーナーに、展示資料一覧と簡単な解説文を掲載しています。

(<http://www.ndl.go.jp/gallery/permanent/index.html>)

巻末にこの展示会に関連したコラム「本を魅せる常設展示案内」があります。



## 本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主に取次店を通さず国内出版物を取り上げ、ご紹介いたします。

### 「イギリスの美づゝ本」展 Exhibition

佐川美智子、江尻潔、永山多貴子、山根佳奈、  
曾根広美編 マンゴステイン刊  
二〇〇六 一六五頁 B15 (UE71-H25)

目の前にあるこの本をまず手にとってみる。どこかしつとりと手に馴染む感触である。臙脂色の表紙には金箔の花文字が美しく映える。次のページをめくるとどんな美しさが自分を待っているのだろうかと思わせる一瞬である。

本を形づくるときの装丁（体裁）は、なくてはならぬものである。用と美が一体となったものが工芸品だとすれば、美しい装丁に包まれた書物はまさに工芸品といえる。

本書は日本国内を巡回した展覧会の図録である。

一五世紀中頃、ドイツのグーテンベルグに始まる活字印刷技術を、本国へ持ち帰ったカクストンによってイギリスの印刷術は大きく発展する。そしてそののち「世界三大美書」といわれる『チョーサー著作集』、『欽定英訳聖書』、『ダンテ全集』の華麗なる書物を生み出すことになる。

それでは何故このように華やかな世界が開けたのであろうか。それはイギリスの産業革命が大きな位置を占める。これによって社会は大きく変化し、国民の聖書・宗教書への関心・要求が高まってゆく。活字印刷はまさにこの時流に應えるものであったのである。

さらに美へのこだわりは活字印刷本の歴史の最初からあった。

本を形づくる要素には活字の形、組み方、余白のバランス等、多々あるが最終的にはそれら全体を包む表紙が重要な位置を占める。

本書は二章に分かれ、第一章では印刷本の草創から成長する一八世紀までと、ビクトリア朝の繁栄期に華ひらくさま、そしてモリスの業績の集約とから成っている。

プライベートプレスの中核にあり、理想の

書物を追い求めたウィリアム・モリスは多くの美本を世に出した。プライベートプレスとは私家版と訳されるが、本書では「小規模事業で美本にこだわって手の込んだ作業を経た限定出版を専らとす」とある。

第二章ではそれらの歴史を引き継ぐ現代作家による作品群を掲載している。

第一章の初期の印刷本は、眺めているうちに年代によるインクの色微妙な違いが見えてきて、インクの香りまでしてきそうである。また、当時すでに、活字が芸術の域に達している。

国情安定期のビクトリア朝時代は、経済成長を背景に国が教育に力を入れるなどして、年代記、詩集、絵本など百花繚乱のさまでなつて活字印刷の最盛期を迎える。

こうした長い装丁文化史の中の大きな特徴に金箔押しと木版画の発展がある。コーランの装丁としてオリエントに発祥した金箔押しは交易ルートにのってはるばるイギリスまで渡り、その華麗さには目を見張るものがあった。濃い地の革に鮮やかに浮き立つ金箔の文字や文様はどの時代のものも豪華である。また木版画の発展は挿絵に大きな影響を及ぼし、画家たちが腕を競い合う場ともなっ

た。

これらのどのページに掲載された本にも本づくりのこだわりが感じられ、開かれたページの作品に吸い込まれていきそうである。

そして第二章に掲載された現代の作家たちによる装丁美は、斬新なアイデアで見られるのを誘う工芸作品の世界となっている。異民族の流入を絶えず受け入れてきたイギリスの長い歴史のなかで、国民がそこから学びとつた「すべてに対して開かれた精神」というものを、作品群の根底に垣間見ることができるとしてこれらの本作りの基本には「書物に対する思い」が一樣にこめられていることがみとれる。

本書の末語に「本は時代を超えて存在する。何世紀も昔に発明された本という形式は文明の勝利を物語っている」とある。

社会の成熟度をはかるには、さまざまな定義があるかも知れないが、「情報化社会」といわれたい久しい現代にあつてこの末語はわれわれに書物というものについて今一度考えるひとつの示唆を与えてくれているようにも思えるのである。

嶋本 裕子

## 月例報告

### おもな人事

警察庁事務官兼国立国会図書館司書

井上 正美

国立国会図書館司書の兼任を解く

警察庁事務官 田中 巖

国立国会図書館司書に兼ねて任命する

総務部支部図書館・協力課勤務を命ずる

以上平成十九年三月二十七日付け

人事院事務官 藤倉 功也

国立国会図書館支部人事院図書館長を免ずる

人事院事務官 川崎 功

国立国会図書館支部人事院図書館長を命ずる

国土交通技官 羽鳥 光彦

国立国会図書館支部気象庁図書館長を免ずる

国土交通技官 西出 則武

国立国会図書館支部気象庁図書館長を命ずる

人事院事務官兼国立国会図書館司書

宇津野 元

国立国会図書館司書の兼任を解く

人事院事務官 佐久間 聡

国立国会図書館司書に兼ねて任命する

総務部支部図書館・協力課勤務を命ずる

内閣法制局事務官兼国立国会図書館司書

久米恵美子

国立国会図書館司書の兼任を解く

内閣法制局事務官 坪井 正道

国立国会図書館司書に兼ねて任命する

総務部支部図書館・協力課勤務を命ずる

内閣府事務官兼国立国会図書館司書

柿本 讓

国立国会図書館司書の兼任を解く

内閣府事務官 中川 宏

国立国会図書館司書に兼ねて任命する

総務部支部図書館・協力課勤務を命ずる

総務事務官兼国立国会図書館司書

佐々木啓夫

国立国会図書館司書の兼任を解く

総務事務官 根岸 浩之

国立国会図書館司書に兼ねて任命する

総務部支部図書館・協力課勤務を命ずる

厚生労働事務官兼国立国会図書館司書

木戸 祐治

国立国会図書館司書の兼任を解く

厚生労働事務官 井上 直司

国立国会図書館司書に兼ねて任命する

総務部支部図書館・協力課勤務を命ずる

海上保安官兼国立国会図書館司書

天方 壽美

国立国会図書館司書の兼任を解く

海上保安官 川村 通世

国立国会図書館司書に兼ねて任命する

総務部支部図書館・協力課勤務を命ずる

防衛事務官兼国立国会図書館司書

永田 明

国立国会図書館司書の兼任を解く

防衛事務官 渡辺 巖

国立国会図書館司書に兼ねて任命する

総務部支部図書館・協力課勤務を命ずる

以上平成十九年四月一日付け

―職員を表彰―

永年勤続表彰について

司 書 青野千壽代

副 館 長 生原 至剛

司 書 倉光 典子

専門調査員 清水 隆雄

調査員 高山 直也

司 書 滝澤百合子  
参 事 松村光希子

右は三十五年以上の永きにわたりよく職務に精励しその功績は他の模範とするに足りる  
よつてここにこれを特に表彰する

右は二十年以上の永きにわたりよく職務に精励しその功績は顕著である  
よつてここにこれを表彰する

以上平成十九年六月五日付け

司 書 相原 信也

同 大泉 典子

同 大塚 晶乙

参 事 川鍋 道子

同 河村 悦子

同 小坂 智

同 小寺 正一

同 佐藤 従子

同 鈴木 康之

同 田中 久徳

同 寺倉 憲一

同 中澤 綾

同 中村 信夫

同 中渡 明弘

同 林 雅樹

同 福島 清裕

同 古川浩太郎

同 堀内 夏紀

同 森 健一

同 森田 大作  
同 柳沢紀ノ香  
同 調査員 山崎 治男  
同 ローラーミカ

同 調査員 山崎 治男

同 ローラーミカ

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

(元専門調査員) 三上 良一

記

從四位に叙する

瑞宝中綬章を授ける

平成十九年四月十五日付け

―元職員に対する叙位および叙勲―

元職員に対し左記のとおり叙位および叙勲があった。

正四位に叙する

平成十九年四月十二日付け

(元副館長) 長野 裕

国立国会図書館の編集・刊行物

全国書誌通信 第二二七号 A 4 三三頁

電子的全国書誌 (Electronic National Bibliography) (那須 雅照)

『日本全国書誌』冊子体の終刊について

— ホームページ版へ一本化 —

『雑誌記事索引 科学技術編』の遡及入力について

国立国会図書館「日本目録規則一九八七年版改訂三版 第四章 地図資料」適用細則に  
ついで

『全国書誌通信』総目次 No. 1011  
二二七

『全国書誌通信』の終刊と『NDL書誌情報ニュースレター』創刊のお知らせ

不定期刊 五二五頁 (日)

\* 『全国書誌通信』は本号をもって終刊となります。今後は、当館ホームページ掲載の『NDL書誌情報ニュースレター』  
([http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib\\_newsletter/index.html](http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib_newsletter/index.html)) を利用ください。詳しくは、本誌10ページをご覧ください。

レファレンス 六七六号 A 4 一〇九頁

「サハリン2」問題

〈小特集 政治における政策決定過程〉

議会制民主主義と政治参加

アメリカの大統領行政府と大統領補佐官

審議会等・私的諮問機関の現状と論点

フランスにおける選択刑制度

フィンランド及びイギリスにおける義務教育の評価制度の比較

月刊 税・送料込み 一、〇五〇円 (日)

国立国会図書館絵はがき 資料編・建物編

東京本館のほか関西館、国際子ども図書館を収録した建物編と、古活字版をはじめ特色ある蔵書を収録した資料編。各八枚組。

各五五〇円 (上)

入手のお問い合わせ

(日) 日本図書館協会 〒104 東京都中央区新富1-1-14

(上) 上田商店 〒892 東京都千代田区水田町1-1-1

〒100 国立国会図書館内売店 (内線一八五三)


特に記載のないものは税込価格です。

国立国会図書館絵はがき  
資料編



National Diet Library  
Postcard Collections

国立国会図書館絵はがき  
建物編



National Diet Library  
Postcard Buildings

## 子ども霞が関見学デーのお知らせ

「子ども霞が関見学デー」は、小中学生が広く社会を知り、国の業務に対する理解を深める体験活動の機会として、文部科学省を中心に実施する行事です。国立国会図書館東京本館では、「日本でいちばん大きい図書館を探検しよう」と題したプログラムを次のとおり実施します。参加を希望される方は、事前にお申し込みください。

### 日時

8月22日(水) 本の病院を見てみよう

①11:00~12:00 ②14:00~15:00 各回20名(引率者を含む)

8月23日(木) 図書館の舞台裏を見てみよう

①11:00~12:00 ②14:00~15:00 各回30名(引率者を含む)

### 申込方法

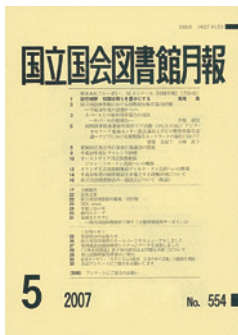
往復はがきに次の事項をご記入のうえ、申込先までお送りください。返信用のはがきには、返信先(お申込み責任者)の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。

- ・ご本人(子ども)氏名・年齢
- ・引率者氏名
- ・郵便番号
- ・住所
- ・電話番号
- ・希望する回

申込先：〒100-8924 国立国会図書館  
総務部 総務課 広報係



## 本誌アンケートにご協力をお願いします



現在、『国立国会図書館月報』のアンケートを実施しています。

みなさまのご感想・ご意見をお聞きし、広報誌としてさらに内容を充実させます。

アンケート用紙は、当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/jp/publication/geppo/index.html>) に掲載しているほか、本誌5月(554)号に挟んであります。回答は、ファクシミリ、メールまたは郵送にて受け付けています。締め切りは7月31日です。

ご回答をお待ちしています。

(総務部総務課編集係)

## 国際子ども図書館 夏休み催物「科学あそび」 ふしぎな動きを楽しもう～ころがるマユと飛ぶタネ作り

国際子ども図書館では、毎年夏休み期間にあわせて、子ども向け催物を行っています。科学の本に対する子どもたちの興味を引き出すため、「科学あそび」を開催します。対象年齢別に、ころがるコース・飛ぶコースの2コースを設けました。身近にある材料（折紙やストローなど）を使って、簡単な模型を作り、不思議な“動き”を楽しみます。

- 日 時 平成19年7月28日（土）午後1時30分～、3時～  
平成19年7月29日（日）午後1時30分～、3時～  
各回とも2コース実施。4回ともすべて同内容です。  
所要時間はいずれも1時間程度です。

- 場 所 国際子ども図書館3階ホール  
およびワークルーム

- 対 象 ころがるコース（満4歳以上）  
飛ぶコース（小学校1年生以上）  
※どちらも大人の方は入れません。

- 人 数 各コース・各回とも15名程度

※夏休み催物「科学あそび」開催日は、「子どものためのおはなし会」をお休みします。



昨年の様子

### 国際子ども図書館の催しへの申込方法・問い合わせ先

- 申 込 方 法 直接来館、往復はがき、電子メール  
※事前申込制、先着順（定員になり次第締め切ります。）  
※詳細は国際子ども図書館ホームページ(<http://www.kodomo.go.jp/>)  
をご覧ください。電話でお問い合わせください。

- 問 い 合 せ 先 国立国会図書館国際子ども図書館  
Tel：03-3827-2053（代表）

\*いずれも参加費は無料です。

## 国際子ども図書館講演会

## 「多文化社会における児童書・児童サービス」のお知らせ

国際子ども図書館では、国際児童図書評議会（IBBY）のアルダナ会長をお招きし、日本国際児童図書評議会（JBBY）の協力のもと、「多文化社会における児童書・児童サービス」というテーマで講演会を行います。

IBBYは、子どもと子どもの本に関わるすべての人をつなぐことを目的に、1953年に設立された国際的な組織です。2006年にIBBY会長に就任したアルダナ氏は、カナダの児童図書および児童出版分野で長年にわたり活躍されており、多文化社会における児童サービスに造詣が深い方です。当日は、2002年から2006年までIBBY国際理事を務められたJBBY副会長末盛氏の講演もあります。お二人の豊かな経験に基づいた講演を、ぜひご聴講ください。

■日時 7月7日（土）13：30～17：00（予定）

■会場 国際子ども図書館 3階ホール

## ■演題および講師

第1部「多文化社会における児童書の出版（仮題）」

講師 Patricia Aldana（パトリシア・アルダナ）氏（国際児童図書評議会会長）

第2部「多文化へのまなざし－IBBYで私が出会った人々（仮題）」

講師 末盛千枝子氏（日本国際児童図書評議会副会長）

■対象 16歳以上 定員100名

## 国際子ども図書館で〈星座早見盤を作ろう〉

国際子ども図書館では現在、展示会「大空を見上げたら－太陽・月・星の本」を開催しています。7月22日にこの展示会に関連した催し〈星座早見盤を作ろう〉を開催します。作って夜空を見ることで、星座を身近なものにしてみませんか。

■日時 7月22日（日）11：00～、13：00～の2回を予定（いずれも1時間程度）

■会場 国際子ども図書館 3階ホール

■講師 西城 恵一氏（当展示会監修者 国立科学博物館理工学研究部主任研究員）

■対象 小学生以上 各回20名程度（親子でのご参加も歓迎します。）

## 展示会のご案内

開催期間 平成19年2月10日（土）～平成19年9月9日（日）

休館日 月曜日、こどもの日を除く国民の祝日・休日、  
資料整理休館日（第三水曜日）

開催時間 9：30～17：00

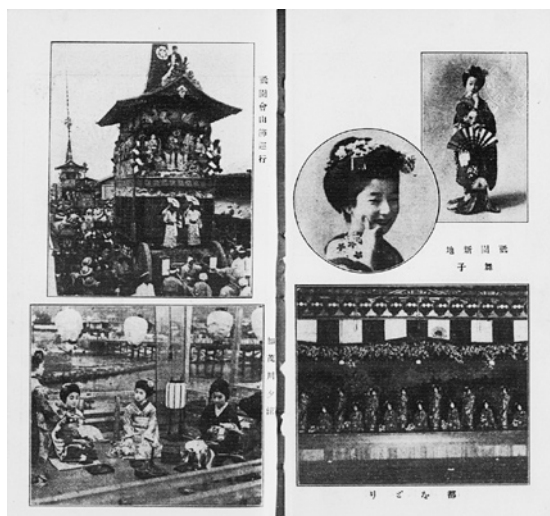
\*入場無料

## 近代デジタルライブラリー、大正期刊行図書を提供開始

7月3日、近代デジタルライブラリーでは大正期刊行図書の提供を開始します。今回提供するの著作権保護期間満了が確認された資料など約7,200タイトル（約15,700冊）です。近代日本の法整備に貢献した法学者・穂積陳重が、古今東西の法に関する話をまとめた『法窓夜話』や、大正時代の京都を旅する気分になれることができる『京都遊覧案内』などの資料をご覧いただくことができます。また、大正期の図書からは、これまでのモノクロ画像と比べ、白黒の濃淡をより細かく表現できるグレースケール画像を採用しています。

明治期に刊行された図書と合わせ、近代デジタルライブラリーで提供する総数は約97,000タイトル（約143,000冊）となります。来年度以降も、大正期刊行図書を順次追加していく予定です。これからも一層充実していく近代デジタルライブラリーを、是非ご利用ください。

■「近代デジタルライブラリー」のページ <http://kindai.ndl.go.jp/>



(左) 祇園山鉾巡行、加茂川夕涼 (右) 祇園新地舞子、都をどり  
『京都遊覧案内』大正 5 年 5 月 31 日現在

### 明治時代の写真帖の画像もより鮮やかに

明治時代に刊行された代表的な写真帖、約330冊の画像も7月3日から鮮やかになります。これまでのモノクロ画像から、今回の大正期刊行図書と同じグレースケール画像を採用し、写真帖らしい細やかな画像をご覧いただくことができますようになります。

(関西館電子図書館課)





毎週の選書作業で、データベースに収録する資料も選んでいる。

する資料であれば「どのようなことがわかる資料なのか」、「近現代日本政治関係人物文献目録」であれば「何ページに、誰についての記述があるのか」、「日本科学技術関係逐次刊行物総覧」であれば「掲載されている情報（論文、会議録など）」「編集・発行機関についての情報」といった具合に必要な情報をピックアップします。

③データベースに登録 こうしてピックアップした情報は、複数の職員による校正を経てデータベースに登録し、順次ホームページ上に掲載しています。

## 《今後の展開は？》

NDLでは、今回紹介したもののほかにも分野ごとに資料を整理した目録を多数刊行してきました。冊子目録以外にも、閲覧室のカード目録でしか調べられないものもあり、データベース、冊子目録、カード目録を併用する必要があるのが現状です。今後は、これらの目録をニーズの高いものから順次データベース化して、いろいろなテーマの資料を容易に検索できるようにしたいと考えています。データベース化にあたっては、将来予想されるデータ項目の追加・修正（関連するインターネット情報を追加するなど）にも対応できるような、柔軟な構造に設計することが必要でしょう。

また、現在は、「テーマごと」に別々の「主題書誌に関するデータベース」が存在しているため、調べる内容によってデータベースを使い分ける必要があり、慣れていない方にはやや使いにくいというのが難点です。今後はより効率よく情報を探すために、「主題書誌に関するデータベース」をまとめて検索する仕組み、さらには他のデータベースや前号で紹介した「テーマ別調べ案内」のページなど、調べものに役立つ関連情報も一緒に提示する仕組みの実現を目指しています。

こうした新しい仕組みについては、現在検討を進めているところですが、その詳細は回を改めて紹介しますので、どうぞご期待ください。

(主題情報部参考企画課 上田 貴雪)

<sup>1</sup> 「『近現代日本政治関係人物文献目録』当館ホームページで公開」『国立国会図書館月報』(514), 2004, P.26-27.

<sup>2</sup> <http://kindai.ndl.go.jp/index.html>

現在は、表に示したデータベースを提供しており、いずれもNDLの各専門室に設置している端末から利用できます。また、「参考図書紹介」「近現代日本政治関係人物文献目録」「日本科学技術関係逐次刊行物総覧」の三つは、NDLのホームページでも利用できます。

**参考図書紹介** NDLが所蔵する「参考図書」（辞書・辞典類、便覧、年鑑など）の書誌事項を示すとともに、一部については書かれている内容を簡単に紹介する「解題」をつけたものです（日本図書館協会刊『日本の参考図書 四季版』として冊子でも刊行されています。）。例えば、『ちゃんと知りたい！日本の戦争ハンドブック』（GB411-H147）には以下のような解題を付しています。

「日本の近現代の戦史を、単に過去の歴史として学ぶのではなく、歴史をめぐって、私たちがいまどのような状況に直面しているのかといった現代的な視点を基底にすえて学ぶことができるハンドブック。概説、Q & A、コラム、キーワード解説、各種資料、索引等が収載されているので、……（後略）」

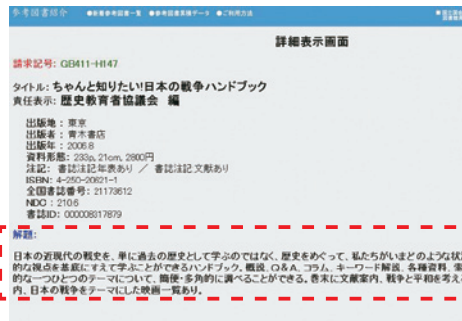


図 「参考図書紹介」の画面 [ ]部分が解題

**近現代日本政治関係人物文献目録** 明治期以降に刊行されたNDLの蔵書のうち、政治の分野で活躍した日本人について書かれた和図書を集めたものです<sup>1</sup>。資料の中で言及されている人の名前から探すことができるので、例えば「安倍晋三首相について書かれている和図書を探す」といった場合に便利です。平成19年3月からは、収録されている資料のデジタル画像が「近代デジタルライブラリー」<sup>2</sup>にあるものについて、直接アクセスできるようリンクを張っています。これにより、一部の資料については「検索して見つけた資料の本文をウェブ上で閲覧する」ことが可能になりました。

**日本科学技術関係逐次刊行物総覧** 平成9（1997）年まで刊行していた同名の冊子をデータベース化したものです。科学技術分野の雑誌をテーマごとに一覧できるほか、「どういった性格の雑誌か（論文誌、会議報告書など）」、「編集・発行しているのはどういった機関か」といったことを知ることができます。

## 《データ作成の流れ》

これらのデータベースは、「①収録する資料を選定」→「②必要な情報をチェック」→「③データベースに登録」という流れで作られています。

①収録する資料を選定 NDLでは、新着資料の中から専門室に開架（自由に手に取って見ることができるよう書棚に並べる）するものを担当職員が選定する作業を週1回行っています。その際、それぞれのデータベースに収録すべき資料もあわせて選定し



## 知識をカタチに

—国立国会図書館が目指す「主題情報提供サービス」

### 第3回 主題書誌に関するデータベース ：「テーマ」から資料を探せる蔵書目録

#### 《「○○について書かれた資料はありますか？」》

資料を探そうとして図書館の蔵書データベースを使う場合、まず思いつくのは、「タイトルに○○というキーワードを含む資料」を検索することではないでしょうか。確かに、この方法でも目的の資料を探すことはできますが、残念ながらタイトルの中にそのキーワードが入っていない資料もたくさんあります。

このような場合に便利なのが、調べている「テーマ」から資料を探す方法です。国立国会図書館（以下「NDL」といいます。）では、テーマから資料を探すための手段として、次のものを用意しています。

- ・NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）の「件名検索」「NDC（日本十進分類）検索」など
  - ・どのように調べたらよいか、を紹介する「テーマ別調べ案内」
  - ・特定の分野に関する資料を一覧できる「主題書誌に関するデータベース」
- 本稿では、このうち三つ目の「主題書誌に関するデータベース」について紹介します。

#### 《「主題書誌に関するデータベース」とは？》

NDLでは、蔵書目録の他に、従来からいろいろなテーマに関する所蔵資料をまとめた冊子目録を刊行してきました。これらのうち一部については、近年のインターネットの普及に伴う目録の電子化にあわせて、データベース化して提供しています。

表 主題書誌に関するデータベースの概要（収録件数は2007/05/16現在）

名 称	収録件数	概 要
○参考図書紹介	25,029	NDLで受け入れた参考図書を分野ごとに一覧することができる。一部の資料は解題をつけて紹介。
○近現代日本政治関係人物文献目録	51,499	明治期以降、政治の分野で活躍した日本人に関する文献について、人物名から関連文献を検索できる。
○日本科学技術関係逐次刊行物総覧	6,797	国内で刊行された科学技術関係学術雑誌等の、書誌・編集機関に関するデータを収録。
目次検索システム	49,415	目次の中の文言を検索対象として資料を調べることができる。
戦前期日本軍事関係図書目録	32,962	旧日本軍の戦記・部隊史などを部隊名から検索できる。
企業・団体リスト情報	3,754	経済、社会、教育分野の企業・団体等のリスト（例えば、会社名鑑、学校一覧など）を収録しているNDL所蔵資料の書誌データを集積したもの。これらのリストを業種ごとに一覧できる。

○「国立国会図書館ホームページ「調べ案内」<<http://www.ndl.go.jp/data/search.html>>からアクセス可

# 本を魅せる 常設展示案内 (24)



## 第148回常設展示 女學生らいふ

平成19年 6月21日～8月14日

「女学生」。この言葉は明治初年頃に生まれ、20年代以降、一種の都市風俗を表すものとして定着したとされています。文明開化の息吹のなか、新たな女性像のひとつとして登場した女学生は、教養ある女性層を代表する存在でした。時代風俗の象徴のひとつとして世間の注目を集め、時に憧れの対象、時に風刺的ともなった彼女たちの姿は、新聞や雑誌、文学作品などさまざまな資料に見ることができます。

女学生の登場にはいうまでもなく、近代的女子教育の導入が必要でした。江戸時代には、女子に対する教育の場はきわめて限定されていましたが、明治に入ると、フェリス女学校などの私立女学校や官立女学校の設立が相次ぎます。明治32(1899)年、高等女学校令によって高等女学校の設置が制度化されると、女学生の数は1万人を超えるようになりました。そして、進学率が大きな伸びを見せた大正～昭和期には、女学生独自の文化が生まれました。

第148回常設展示では、そうした明治期から昭和初期にかけての女学生をテーマに取り上げます。

第1章は「女学生－イメージの変遷」と題し、服装やイメージの移り変わりをたどります。男袴や洋装、海老茶袴にセーラー服。社会の変動とともに、女学生の服装は変容を遂げました。また、小説や広告絵画のなかで美しく描かれる一方、「海老茶式部」、「墮落女学生」などと呼ばれ、風刺雑誌の格好の標的ともなりました。

第2章では、教科書や新聞記事などの資料から、女学生の学校生活をご紹介します。良妻賢母主義が掲げられた女学校では、女学生は裁縫、家事などの科目を学びました。また、運動会や修学旅行といった学校行事においても、「髪結競争」のような一風変わった競技や、三越見学のような時代を反映したものが見られます。

第3章では大正半ばから昭和初期にかけて花開いた、いわゆる「女学生文化」をご紹介します。可憐でロマンティックなものを好んだ女学生は、少女小説や抒情画などの流行を生み出しました。「女学生の必需品」とまで呼ばれた少女雑誌など、当時の女学生が胸をときめかせた資料の数々をお楽しみください。

なお今回は、出版界で活躍した布川角左衛門氏(1901～1996)が収集した出版関係コレクションの布川文庫(東京本館人文総合情報所管)からも一部展示します。



自転車に乗る女学生  
『新版引札見本帖 第1』[1903]  
＜当館請求記号 406-5＞より



(いしざわ あや たかみね やすよ ふじい ともこ)  
(石澤 文・高峯 康世・藤井 朋子)

## 国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49

電話 03 (3827) 2053

利用案内 電話 03 (3827) 2069 (音声・FAXサービス)

ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>

国際子ども図書館は、国立国会図書館の支部図書館として内外の児童書とその関連資料に関する図書館サービスを国際的な連携のもとに行います。

**利用できる人** どなたでも利用できます(ただし資料室は満18歳以上の方)。

**資料の利用** 館内利用のみ。館外への帯出はできません。

**開館時間** 9:30~17:00

**休館日** 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は除く)、  
年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)

**休室日** 休館日以外に次の日が休室となります。

2階第一、第二資料室：日曜日

3階本のミュージアム：展示会準備期間

## 支部東洋文庫

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21

電話 03 (3942) 0122 (代表)

東洋学の発展を目的とする専門図書館。

アジア全般にわたる資料・研究書を所蔵しています。

---

### 国立国会図書館月報

平成19年6月号 (No.555)

発行所 国立国会図書館

平成19年6月20日発行 定価525円  
(本体500円)

編集者 矢部 明 宏

発売 社団法人日本図書館協会

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03 (3581) 2331 (代表)

電話 03 (3523) 0812

FAX 03 (3597) 5617

FAX 03 (3523) 0842

E-mail [geppo@ndl.go.jp](mailto:geppo@ndl.go.jp)

E-mail [hanbai@jla.or.jp](mailto:hanbai@jla.or.jp)

印刷所 株式会社丸井工文社

---

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜き取り転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ(<http://www.ndl.go.jp> 「刊行物」 「国立国会図書館月報」)でご覧いただけます。

表紙 中性紙使用

本文 中性再生紙使用

## NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN

No. 555 June 2007

### CONTENTS

*Ogi Kazuto nikki* (Random notes on rare books, 472)

- 1 National bibliographies
- 11 Fourth mutual visit program with the National Assembly Library of Korea
- 16 14<sup>th</sup> forum for libraries participating in the National Union Catalog Network
- 17 3<sup>th</sup> forum for libraries participating in the Collaborative Reference Database Project

- 
- 20 Tidbits of information on NDL
  - 21 Books not commercially available
  - 22 Monthly official report
  - 24 Publications from NDL
  - 31 Give shape to knowledge - NDL headed to "Subject Information Services" (3)
  - 32 Schoolgirls' life (Enchanting world of books - Guide to regular exhibition, 24)

---

< Announcement >

- 20 Announcement of regular exhibition
- 25 Announcement of Children's Day for Visiting Kasumigaseki
- 25 Call for participation in the questionnaire on this bulletin
- 26 Summer event of the International Library of Children's Literature: Fun with science "Let's enjoy unusual movements! - making models of rolling cocoons and flying seeds with things near at hand"
- 27 Announcement of lecture at the International Library of Children's Literature "Children's books and services in a multicultural world"
- 27 < Let's make a planisphere! > at the International Library of Children's Literature
- 28 Books printed in the Taisho era added to the Digital Library from the Meiji Era

---

NATIONAL DIET LIBRARY  
Tokyo

